

## 平成30年シラス漁の経過について

平成30年の県内主要5港（大津，久慈，大洗，鹿島，はさき）におけるシラス漁獲量は，春季（2～7月合計）は1,607tで好漁，秋季（8～12月合計）は1,684t（速報値）で中漁となりました。年間合計漁獲量（3,291t）は平成29年（3,399t）と同水準で，過去5年平均（2,392t）を大きく上回りました（図1）。

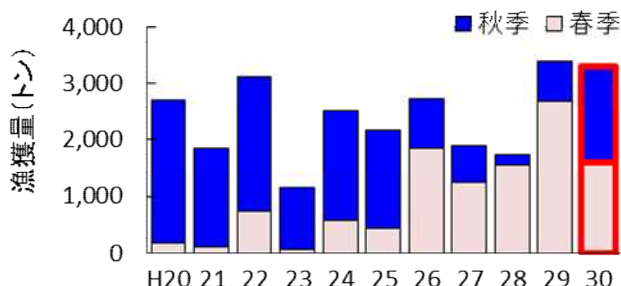


図1：漁期別シラス漁獲量の推移

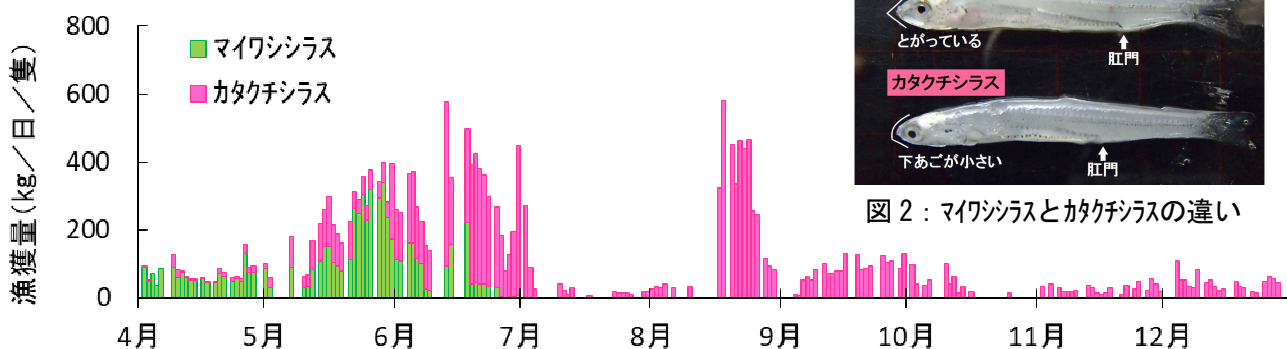


図3：1日1隻当たりのシラス漁獲量の推移

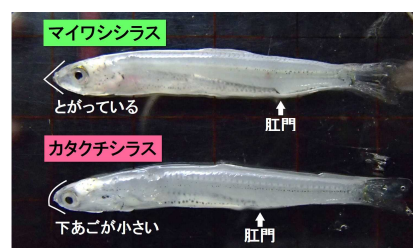


図2：マイワシシラスとカタクチシラスの違い

### 【春シラス：県内各地で好漁続く】

春季は，例年より早めの4月上旬からシラス漁が始まり，5月中旬～7月初めまで県内各地で漁場が形成され，連日好漁となりました。この要因としては，4月上旬以降本県沿岸域に黒潮からの暖水が波及し，高めの水温で推移したため，シラスが本県沿岸域に来遊しやすい環境であったと考えられます。また，近年のマイワシ資源の増加により，4～5月はマイワシシラス（図2）主体の水揚げとなりました（図3）。

### 【秋シラス：近年では好調】

秋季の漁況は，お盆明けに水揚げが増加し，8月中は好漁が継続しました。9月以降は水揚量が減少しましたが，12月下旬まで断続的に漁獲がみられました（図3）。秋季の水揚量は1,684tとなり，平成26年以降で最も多くなりました。この要因としては，8月上旬に本県沿岸域に暖水が波及して以降水温が高い状況が継続し，シラス漁に適した環境であったためと考えられます。

※なお，今年の船曳漁況予測は，2月の沿岸資源等談話会にて発表します。（回遊性資源部 鈴木 裕也）

新年あけましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は，水産試験場の業務にご協力を頂き，厚くお礼申し上げます。

さて，県では昨年11月新たに策定しました茨城県総合計画に基づき，新しい豊かさを目指し「水産業の成長産業化」を進めていくこととしております。

水産試験場におきましては，水産資源を持続的かつ最大限に活用するための資源調査や，漁業と水産加工業が共に成長していくための技術支援等に取り組んでまいりますので，引き続きご協力のほどよろしくお願い致します。

平成31年1月吉日

茨城県水産試験場長 土屋圭巳  
職員一同

【次号予告】 H30.1.15の「水産の窓」は，「ヒラメの資源状況」を予定しています。